

「考える力」をはぐくむ教科指導改善研究会 「授業づくりのポイント」提案

No.85号でもお伝えしましたが、置賜教育事務所では教科研究プロジェクトチーム（今年度は4教科）を組織し、「『考える力』をはぐくむ教科指導改善研究会」による研究を進めて参りました。2月に実施されました本研究会では、教科研究員による実践交流が行われ、1年間の研究成果についてチームで共有を図りました。

1年間の研究を基に、各教科チームごと3点の「授業づくりのポイント」と、「キャッチフレーズ」をまとめました。授業で大切にすべきポイントが詰まっておりますので、今後の授業づくりの参考にいただければと思います。

小学校 国語

教科研究員 後藤 昌幸（南陽市立赤湯小学校）
梅津 純子（飯豊町立第二小学校）
須田 裕美（小国町立小国中学校）

課題解決に必要な学び合いや書く活動の 効果的な位置付けによって、言葉の力を育てる授業に！

- 教師の願いと子供の思いを重ね合わせながら、子供が主体的に学ぶことができるような課題を設定する。
- 必要感のある学び合いの場を設定し、課題解決に向かう着眼点を明確にする。
- 表現力を高め、他教科や日常生活場面で生かす力とするために、書く活動を効果的に位置付け、言葉の力が付いたかどうか適切に評価する。



小学校 算数

教科研究員 田中美枝子（米沢市立東部小学校）
西山 俊樹（南陽市立宮内小学校）
内山 智江（高畠町立亀岡小学校）

子供から「問い」を引き出し、 学び合いを通して能動的に学びを深める授業に！

- 「あれ？」「なぜ？」「どっち？」などと思わせる場の設定により、子供の問いを引き出し、能動的な学びにつなげる。
- 学び合いに「友だちの考えを推測する場」「新たな見方に触れる場」を設定することにより、全員に考える必要感を持たせ、探究的な問題解決につなげる。
- 本時の目標と整合性がとれた適用問題と明確な評価基準（A・B基準）の設定により、本時でねらった力が本当に付いたのかを適切に評価する。

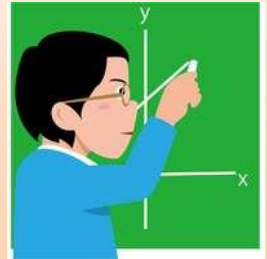


中学校 数学

教科研究員 星野 篤史（米沢市立第二中学校）
遠藤 幸（長井市立長井南中学校）
渡部 一喜（高畠町立高畠中学校）

解決したくなる課題を提示し、深い学びに 導くことで数学のよさを実感できる授業に！

- 教科の本質に迫り、付けたい力を明確にした単元構成を行う。
- 生徒の問いを引き出す教材開発と数・式、図、表、グラフ等を活用し、互いの思考に触れながら、考えを洗練させる過程を充実する。
- 数学的に考えることのよさや、課題を解決できた喜びを実感できる活動や振り返りの場を設定する。



中学校 外国語

教科研究員 松本 咲枝（米沢市立南原中学校）
尾形 浩一（高畠町立高畠中学校）
河内 昭（小国町立小国小学校）

インタラクティブな活動を取り入れ、 コミュニケーション能力を高める授業に！

- 生徒が「話したい!」「伝えたい!」と思えるような身近な話題や場面を取り入れた、必然性のある言語活動を位置付ける。
- コミュニケーション能力を高めるための、自分の思いや考えを伝え合うインタラクティブな活動を工夫する。
- ルーブリック、CAN-DOリスト等により、学習目標を明確にするとともに、振り返りや評価の方法を工夫する。



おきたまの教育 平成28年度置賜教育事務所 学校教育指導の重点

人間力に満ちあふれ、山形の未来をひらく人づくり
つなぐ～いのち、学び、地域～

魅力にあふれ、安心・元気な学校をつくる 教職員力を高める

子どもが向き合う 子どもの育ちと学びをつなぐ

授業を中核に、生きめく力をほぐす

育える力をほぐすも授業づくり 自尊感情をほぐすも集団づくり

特別支援教育 一人一人の教育的ニーズに応じ、多彩な個別支援体制の整備

山村振興教育 『生き生きとした暮らしを創る』

今年度の取組の成果を「実践記録集」としてまとめ、置賜教育事務所HP【<http://www.pref.yamagata.jp/ou/kyoiku/706003/>】にアップします。

教科研究員の先生方の実践（指導案等）も掲載しますので、ぜひご覧ください！

平成29年度のスタートに向け、置賜教育事務所ではリーフレット「29年度版 おきたまの教育（学校教育指導の重点）」の発行に向けて現在準備を進めております。

「29年度版 おきたまの教育」は、4月1日に各学校にお届けする予定です。先生方お一人に1枚ずつお配りしますので、校内研究の推進、授業づくり、集団づくり等にご活用下さい。